

助産婦雑誌 第53巻 総目次

1999年1 - 12月

(表題は、題名：筆者名、号数、開始ページ数)

特集

[1月号]もっとコミット。助産婦をめぐる法律と行政
助産婦の責任と業務範囲—医師法・医療法と保助看護：松岡恵，1，9。

厚生省児童家庭局母子保健課の母子保健行政のアウトライン：新野由子，1，14。

高齢社会と21世紀の国民医療政策：高木安雄，1，21。

未来をつくるための各委員会と行政の動き—助産・看護にかかわる動向の解説：森山幹夫，1，26。

情報開示の流れ—臨床への影響：星野一正，1，36。

[対談]助産婦として市議として，母子と市民のために力を尽くします：宮村素子・森雪枝，1，41。

[インタビュー]南野参議院議員6年間の軌跡—助産婦で政治家の私を有効に活用してください：南野知恵子・〔聞き手〕本誌，1，47。

消費者と共に政策決定に参加したニュージーランド助産婦協会：カレン・ギリランド，1，53。

[2月号]周産期のアロマセラピー

[座談会]周産期にアロマセラピーを用いるということ：中根直子・東野利夫・鮫島浩二・川端一永，2，9。

アロマセラピーとは：川端一永，2，16。

妊娠中のアロマセラピー：鮫島浩二，2，23。

分娩時のアロマセラピー：山科香奈恵，2，33。

産褥期のアロマセラピー：東野利夫，2，37。

母と子のアロマセラピー：柳瀬幸子，2，42。

産後のケア：アロマセラピートリートメントとツボ刺激：清水敬子，2，46。

妊産婦のアロマセラピー体験：元木美生・大刀小織・呉侑紀，2，52。

アロマセラピー海外文献の紹介：齋藤いずみ，2，55。

アロマセラピー関連の情報：川端一永，2，61。

[3月号]知らないではすまされない不妊治療

総論：不妊症ケアの現代史と理解のポイント：石原理，3，9。

最新不妊治療のすべて：荒木重雄，3，15。

[座談会]現場の助産婦の悩みと葛藤：福井トシ子・宗形初枝・高崎由佳理・浅見万里子，3，22。

助産婦の私がなぜ不妊カウンセラーになったのか：浜崎京子，3，29。

不妊相談1500例のデータにみる生の声：伊藤妙子・赤城恵子・鈴木良子・杉村由香理・北村邦夫，3，34。

不妊治療には良きチームが不可欠：森本義晴，3，39。

「不妊」は文化の問題である：鈴木良子，3，45。

埼玉県が取り組む不妊ケア：鈴木久美子，3，50。

[4月号]助産婦教育。どこで行なうか—質と量の確保
助産婦教育の現状と近未来の課題：平澤美恵子，4，9。

[座談会]助産婦教育の抱える問題と解決の方向性：茅島江子・小田切房子・熊澤美奈好・山口裕子，4，16。

4年制大学での助産婦教育①聖路加看護大学の助産教育：有森直子・片桐麻州美・片岡弥恵子・森明子・三橋恭子・桃井雅子・堀内成子，4，23。

4年制大学での助産婦教育②杏林大学保健学部看護学科の助産婦教育：加藤尚美，4，28。

職能団体による現任教育①(社)日本助産婦会の現任教育：岡本喜代子，4，33。

職能団体による現任教育②日本看護協会看護教育・研究センター継続教育部の現任教育：板倉智子，4，38。

[インタビュー]助産婦教育の展望—近藤潤子先生に聞く，4，42。

助産婦と看護婦：関わりながら相異なる2つの職種についての考察：フチ・ひとみ・小沢，(訳)三砂ちづる，4，46。

21世紀の大学教育と助産婦教育：大室律子，4，53。

大学専攻科における助産婦教育：丸山知子，4，59。

[5月号]出生前診断と助産婦

[鼎談]さまざまな思いを抱える妊婦をいかに援助できるか：安藤広子・有森直子・田代和子，5，9。

女性・胎児・障害者の対立を越えて—出生前検査をめぐる「関係」を読み解く：斎藤有紀子，5，16。

出生前診断体験者3人の声：安藤広子，5，22。
障害をもつ子の受けとめ方：基本は普通の子：長谷川知子，5，26。
出生前診断を受けた妊婦と家族に助産婦ができること：砥石和子，5，32。
着床前診断を危惧する：利光恵子，5，37。
胎児異常を告知された妊婦をプライマリ助産婦としてケア，戸惑ったことを考察する：鈴木有美，5，43。
出生前診断概説：鈴木薫，5，47。
超音波断層法でわかること，そしてその提起する問題：佐藤孝道，5，53。

[6月号]周産期の「食」

食えることは生きること：周産期の「食」学：香川芳子，6，9。
[座談会]現代女性の食生活と食行動：中村丁次・達野百合子・武井正子・鈴木泰子，6，14。
あゆみ助産院の妊娠中の食支援：左古かず子，6，20。
横浜市戸塚区保健所のマタニティークッキング教室：関口由紀香・金木八千代，6，26。
食と母乳の質：山西みな子，6，30。
離乳食のすすめ方：木村孝子，6，36。
母と子へのアドバイス：自然流食育：真弓定夫，6，42。
現代女性の病理としての摂食障害：切池信夫，6，48。
食のトピックスーカルシウムと鉄の摂取について：上西一弘，6，54。

[7月号]女性 HIV 感染者を援助する

女性のための HIV 予防・ケアの課題ー管理・指導からサポートへ：堀成美，7，9。
妊婦検診と抗体検査ーだれのための何のための検査なのか：池上千寿子，7，13。
HIV 感染妊婦の診療とケア：味澤篤，7，18。
HIV 感染妊産婦のケアの基本：清水協子，7，23。
妊婦の HIV 抗体検査導入のために事前に学んだこと：小竹久美子，7，29。
[座談会]HIV ケアの向上を望むー私たちの妊娠出産体験から：堀成美(司会)・森田和子・島崎洋子・富山仁美・大田美智子，7，36。
カウンセラーがとらえる，女性 HIV 感染者のかかえる諸問題：山中京子・松本智子・神谷昌枝，7，42。
HIV ケアに対する助産婦教育ー学生の行動変容をもめざして：佐山光子・湊孝子・佐藤悦，7，47。

[8月号]助産診断名の開発(1)

助産診断の重要性：青木康子，8，9。
助産診断とは何か：青木康子，8，12。
「助産診断」取り組みの経過ーこれまでのプロセスと現況：齋藤益子，8，15。
「教務主任会」による妊娠期の健康生活診断の助産診断名・診断指標作成：東京都及び近県助産婦教育機関

教務主任会，8，22。

新しい助産診断類型の開発：青木康子，8，28。

「日本助産診断・実践研究会」による新類型に基づいた診断名の開発：青木康子・片山美都子・菊地敦子・熊澤美奈好・小山厚子・齋藤益子・関島英子，8，32。

横浜市愛児センターの「助産診断」への取り組み：横浜市愛児センター看護科，8，40。

[座談会]助産診断の発展のために：齋藤益子・鈴木美恵子・上澤悦子・濱岸真由美，8，52。

産科診断と助産診断：木村好秀，8，59。

[9月号]第25回 ICM マニラ大会

「21世紀の助産を語り合おう」：アリス・サンツ・デ・ラ・ヘンテ第25回 ICM マニラ大会会長，9，9。

ICM の助産婦の定義，9，10。

ICM の歴史と活動，9，12。

第25回 ICM マニラ大会プログラム，9，14。

第25回 ICM マニラ大会レポートー21世紀の助産婦の役割を世界の助産婦が共有：福島恭子，9，16。

[外国人参加者インタビュー/訳・構成/戸田律子]

フィリピンの助産婦は「太陽のヒロイン」。最も高貴な仕事の地位向上を目指して：アリス・サンツ・デ・ラ・ヘンテ，9，22。

立場や考えは違っても助産婦は互いに支え合って：ジョイス・トンプソン，9，27。

学びを分かち合って，健康を身近な存在にしたい：ネスター・モヨ，9，32。

世界の女性と子どもをサポートするため助産婦になりました：トリーサ・シェーバー，9，36。

どこにいても助産ケアに手の届く地球を：イムティアズ・タジ・カマル，9，41。

3年後，ウィーンでお待ちしています：マリア・シュプーンバウアー，9，44。

あなたは大切な人。すべての女性に自信を：M. プラカシャマ，9，49。

2005年 ICM 大会開催地決定。EBM 実践の推進国，オーストラリアで：キャロライン・ウィーバー，9，53。

[日本人参加者感想記]

助産婦として，心の地図が広がった ICM：川野裕子，9，64。

ICM マニラ大会，100倍楽しんでできました！：斎藤りさ，9，69。

自分探しの ICM：吉田敬子，9，73。

ICM 大会はじめての口演発表の体験から：土屋有利子，9，78。

英語はやはり，重要です：森川勝繪，9，81。

[カラーグラフ]手をつなぐ世界の助産婦たち，9，4。

[宮崎カメラマンの ICM グラフティ]ICM 大会とマニラの人々：宮崎雅子，9，58。

[ICM トピックス]アジア太平洋地域新代表に近藤潤子
天使女子短大校長。就任の弁：近藤潤子，9，35。
[ICM トピックス]ICM 理事会「基本的助産業務に必須能力」を採択。全文発表される，9，40。
[ICM トピックス]ICM 大会中に「アジア・ナイト」を開催しました：小野紀子，9，84。
[ICM トピックス]ICM 理事長，事務局長に聞く「ICM」の近況，9，88。
世界の助産婦と女性たちよ，3年後はウィーンで地球家族として集まろう，9，89。
「第25回ICM大会評議会での決定事項」等の解説：松本八重子，9，91。

[10月号]深谷赤十字病院の，これが助産婦の仕事だ
助産婦活動の歴史と活動のアウトライン：江角二三子，10，9。
助産婦外来：太田真由美・志村千恵・鈴木まき子，10，12。
ママ・パパ教室：新井登美子・佐藤理恵子・笠原美保子・波多野操，10，19。
分娩ケアの実際：野村英理・宮下ルリ子・赤城友季子・千葉直美，10，25。
産後から1か月健診までの産褥ケア：根岸喜代子・小川澄子，10，30。
日本助産婦会深谷地区助産婦会を設立，母子訪問活動を始める：田島恵子・丸山理香子・丸岡希美子，10，35。
助産婦学生の実習指導と研修の受け入れ：橋本陽子・田島恵子，10，41。
深谷赤十字病院での実習一指導教官と学生の立場から：小田切房子・小山弘美，10，45。
周産期における医師と助産婦の協働—私の選んだ産科診療スタイル：山下恵一，10，48。
健全な助産婦外来の発展を期待したい—院長の立場から：宮内好正，10，50。
21世紀への序奏—看護部長の思い：中谷夫佐子，10，51。

[11月号]ピル解禁。避妊法のエキスパートになろう
ピルのもたらす医療改革—女性のQOL向上に向けて：芦田みどり，11，9。
リプロダクティブ・ヘルスに果たす助産婦の役割：鈴木幸子，11，15。
ピルがもたらすQOLの向上と新しい女性の健康：対馬ルリ子，11，20。
低用量ピル服用の実際：篠崎百合子，11，26。
避妊カウンセリング：キャロリン・ウェストホフ，芦田みどり，11，33。
解説・近代的避妊法：早乙女智子，11，40。
日本助産婦会のエキスパート助産婦認定教育—家族計画指導専門家の育成。小田切房子・番内和枝，11，46

中高生の性行動と避妊：小田洋美，11，53。
米国助産婦の避妊法処方とピル処方に関する助産教育：大石時子，11，59。
ピル認可を働きかけた一人として：南野知恵子，11，63。

[12月号]EBMにもとづく周産期ケア

EBMの歴史と概略：福井次矢，12，9
Evidenceにもとづく周産期ケア：上井稔子，12，17
コクランライブラリのすすめ：名郷直樹，12，21
脳性麻痺はモニタリングで予知することができるだろうか：Karin B Nelson, James M Dambrosia, Tricia Y Ting, Judith K Grether, (訳)戸田律子，12，26
最近の早期産研究の方向性とEvidence-Based Medicine：古谷健一・村上充剛・徳岡晋・後藤友子・伊香加納子・水本賀文・牧村紀子・永田一郎，12，35
母乳と肥満：横断研究：Rüdiger von Kries, Berthold Koletzko, Thorsten Sauerwald, Erika von Mutius, Dietmar Barnert, Veit Grunert, Hubertus von Voss, (訳)上井稔子，12，41
分娩後うつ病と臨床出産時場面での付添い：無作為対照試験：Wendy-Lynne Wolman, Beverley Chalmers, G. Justus Hofmeyr, V. Cheryl Nikodem, (訳)渡辺邦彦，12，47
[新連載]助産婦のための疫学入門・EBMの理論的根拠としての疫学：三砂ちづる，12，53
[鼎談]EBMはケアの質を高めるもの：上井稔子・谷口千絵・芦田千恵美，12，59

特別記事

グラフ「いいお産の日」in '98：宮崎雅子，2，74。
「いいお産の日 in '98」—こころの胎動，感じますか：永田芳枝・水戸川真由美，2，77。
助産婦と語ろう，いいお産の日 in 宇都宮：湯沢テイ・関根美枝・梅津紀美代・藤岡容子・相田美智子・増渕弓子・福田里美・池田好江・五月女文子・黒崎陽子・日賀野麻子・青山昭子，2，84。
産褥の会陰部ケア—欧米における歴史と現在の温熱・冷却療法：長谷川ともみ(訳)，6，75。
[インタビュー]母と子のきずなづくり—森本義晴先生に聞く：(聞き手)九島璋二，7，53。
[インタビュー]待望の助産婦資格を得ました—銭元見依子さんに聞く，8，65。
[座談会]中高年女性の健康支援—更年期を中心に：前原澄子・麻生武志・三井政子・たけながかずこ，8，70。
[鼎談]マンゴーの樹の下で語ろう。「ブラジルに助産婦をつくりたい」：三砂ちづる・左古かず子・三宅馨，10，61。

[座談会]「日本の助産婦が持つべき実践能力と責任範囲」(コアコンペテンシーズ)を作成して：平澤美恵子・松岡恵・村上睦子，10，69。
「日本の助産婦が持つべき実践能力と責任範囲」―将来の助産婦のあり方委員会報告，10，74。

特別寄稿

米国の助産教育① ワシントン大学看護学修士課程における助産教育の実践：島田三恵子，1，60。
一貫した母子支援システムの構築にむけて一本誌51巻11号「特集/地域母子保健」の「猫田論文」にこたえる：菅沼美奈子，1，66。
助産婦教育課程における自宅分娩見学の効果：古川亮子，1，72。
新潟の助産婦教育の黎明：蒲原宏，2，64。
米国の助産教育② ボストン大学公衆衛生学修士課程における助産教育：島田三恵子，3，56。
自立できぬ男たちの性一援助交際は買い手の問題：尾木直樹，3，61。
子どもは「神様からのプレゼント」―「みんなで育てる」フィリピン：森本葉，3，65。
病院内助産院マタニティークールーム活動：石村朱美・高橋八重子，4，64。
ICM と ICM マニラ大会「助産婦活動に必須の基本的能力(エッセンシャル・コンペテンシーズ)」の承認が ICM マニラ評議会の目玉：松本八重子，4，70。
米国の助産教育③ ニューヨーク州立大学修士課程におけるダイレクトエントリー助産教育のカリキュラムと課題：島田三恵子，4，76。
文献レビューより Water birth を展望する：利点と問題点を考える：芦田千恵美，4，79。
日本ラクテーション・コンサルタント協会(JALC)設立と第1回学習会報告：本郷寛子，5，59。
助産婦として国際認定ラクテーション・コンサルタントの資格を得て：武市洋美，5，63。
タイ山岳民族ポーカレンとスゴーカレン授乳婦の信念や慣習が子どもの健康と栄養に及ぼす影響：大森絹子，5，70。
「ミッドウィフリーストディ」京都国際会議をサポートして，日本の助産婦に伝えたいこと：夏目奈緒子，5，77。
胎便による羊水混濁の程度を分類することには意義があるのか：マリルイズ・ファン・ハイスト，マルク・J.N.C.・カイルス，ゴードリーブ・ファン・ロースマーレン，小出久美(訳)，6，59。
会陰切開を受けた褥婦の自然療法による看護：坂野ゆき子・早川有子・竹中美・工藤祝子・荒巻真由美・東崎貴子・武井正子・小林好美・池村妙子，6，66。
母親学級テキスト『妊婦の安全管理のしおりー妊娠と運転について』を作成：小野清美，7，61。

真の助産婦へのめざめ一分娩・育児を体験して学んだこと：直井亜紀，7，67。
市場原理に揺れ動く米国産科医療：李啓充，8，77。
「働きながら母乳育児」体験記：田中敬子，8，83。
日本各地の医療者による母乳育児をすすめる会の活動：永山美千子，10，53。
父親の育児休業が特別扱いされない社会のために：高倉信行，11，65。
国際助産婦連盟(ICM)アジア太平洋地域代表の任を終えて：松本八重子，11，72。
オーストラリアでの周産期医療・看護改革―地域助産婦の役割：菅野美香，11，79。
母乳育児援助で出会ったすてきな母と子：熊谷則子，11，85。
アメリカで助産婦資格(CNM)を取得しました：Women's Health の概念を求めて：大石時子，12，65。
前向きな助産婦が集まりました。「長崎Cキューブ」物語：野間田真紀子・中尾優子・山崎真紀子・片山清美・大町いづみ・山口由香里・土橋美穂・平山市子・金澤知恵，12，72。

研究・調査・報告

看護士は婦人科的処置に就けないか―看護の専門的態度と性差：井澤ひとみ，2，88。
超低出生体重児を出産した母親の心理過程についてクラウスの情緒的反応段階説から分析し得たこと：鈴木純子・堀美智子・渡辺智美・遠藤恵子・荒井真智子・渡辺真史，3，69。
父親の育児に関する学習―夫立ち会い産の現況：二宮恒夫・谷洋江，6，86。
倉敷成人病センター周産期センターにおける双胎妊婦の体重増加と出生児体重との関係：岸本長代・西本由美，7，73。
月の満ち欠けと満潮時刻を中心とした分娩件数との関係：山西章世・宮本佳枝，12，77。
産褥婦の肛門部腫脹・疼痛に対するヘモタンポンの効果：青山幸恵・押切良子・及川みや子・村山初枝・鈴木清美・池野暢子，12，83。

トピックス

「カイロ行動計画」を見直すための国際会議2月に開催―ハーグにとどけよう女たちの声を！ 女性と健康ネットワーク 99，2，92。
「性と健康を考える女性専門家の会」“バイアグラ認可とピルの不在”に関し，盛んに発言，3，81。
「母子健康手帳」一部改定。4月から新しい母子健康手帳に：新野由子，4，90。
日本助産学会が「日本の助産婦が持つべき実践能力と責任範囲」を発表，7，51。

ミニコミ紙6年間の人の輪が生んだ『REBORN 産院リスト』：河合蘭，7，66.
『埼玉県お産お助けガイド』を作りました！：小田切房子，7，80.
第25回 ICM マニラ大会開催される，8，94.
日本母性看護学会設立される，10，40.
日本助産婦会が勤務助産婦の自律的業務確立に向けて「助産婦相談」の事業を開始(電話・来所)，10，87.
アロマケア学会発足，10，87.
日本助産婦会が開業をめざす助産婦のために「助産所開業マニュアル」を発行，11，58.
情報氾濫時代の水先案内人「ベビカム MAG」：山本智美，11，91.

クローズ・アップ

金沢と札幌で市議としてがんばっています：森雪枝氏と宮村素子氏，1，1.
新潟の助産の黎明期に活躍した：木下(石黒)くに，2，1.
不妊電話相談をボランティアで全国から受ける：中央クリニック(栃木県)の相談スタッフ，3，1.
念願の院内助産院をオープンさせて2年たちました：石村朱美さんと高橋八重子さん，4，1.
助産婦の私も IBCLC(国際認定ラクテーション・コンサルタント)の資格を取得しました：武市洋美氏，5，1.
横浜市戸塚区保健所でマタニティークッキング教室を企画した助産婦：関口由紀香さん，6，1.
母と子のきずなづくりを目ざしたユニークな胎教教室を実践する：森本義晴氏，7，1.
建築士・専業主婦を経て助産婦になった：銭元見依子さん，8，1.
途上国で初めて ICM 大会を開催した：アリス・サンツ・デ・ラ・ヘンテ会長，9，1.
笑顔とやる気でパワー全開：深谷赤十字病院の助産婦の皆さん，10，1.
育児休業を取得。しっかり「父」をした厚生省キャリア：高倉信行さん，11，1.
アメリカでナース・ミッドウイフの資格を取得した大石時子さん，12，1.

命の響き：宮崎雅子

安らかな誕生：1，4.
もうすぐ親になる：2，4.
宇宙のリズムに乗って：3，4.
柔らかくしなやかな手：4，4.
イルカのアップリケ：5，4.
父と子のドリームタイム：6，4.
おっぱいの匂い：7，4.
未来の少年たちへ：8，4.

ヒトの進化を思う：宮崎雅子，10，4.
愛の力：宮崎雅子，11，4.
女の顔：宮崎雅子，12，4.

とらうべ

医療記録の開示をすすめるということ：桜井隆，1，5.
清潔志向の落とし穴：笹津備規，2，5.
オートリクシャからかいま見た触れ合い：ワスナニ・モニカ・孝子，3，5.
書くことのすすめ：高嶋妙子，4，5.
働く妊婦の保護のため「連絡カード」を普及させよう：尾澤彰宣，5，5.
ピル・カウンセラーとしての力量を：松本清一，6，5.
「胎児条項」の意味するもの：安積遊歩，7，5.
子どもの死因の第1位は不慮の事故：山中龍宏，8，5.
少子化を「世代継承」からみると：宮原忍，10，5.
父性愛の目覚め：本田義信，11，5.
サイレント・ベビー—静かな赤ちゃんが増えている：柳澤慧，12，5.

今月のニュース診断：斎藤有紀子

低用量ピル未認可の背景を考える—求められる性と中絶の議論：1，6.
胎児と妊婦の“ふるい分け”検査を考える：2，6.
出生前検査と裁判—胎児と妊婦の“ふるい分け”検査を考える：その2：3，6.
子どもをささえる病院スタッフの労働環境：4，6.
医療情報の行方とプライバシー—個人情報保護の視点から：5，6.
包茎手術・男子割礼・パイアグラ—男性の性と性器をめぐる文化と社会：6，6.
世論調査と報道—厚生省生殖補助医療技術意識調査から：7，6.
家族・遺族のケアと人権：8，6.
多胎減数手術と育児支援：10，6.
子どもに対する実験的医療をどう考えるか：11，6.
「死を選ぶ」子どもの権利を考える：12，6.

読者談話室

誌上討論「証拠にもとづく助産」：ターナー節子，3，74.
「良い香り」を不快に感じる者もいる：吉村友子，5，83.

BOOK

- 「いのち・開発・NGO」：池住善憲，若井晋(監訳)，
4，58.
「子育てと出会うとき」：大日向雅美，5，57.
「母乳育児成功のために」—WHO・ユニセフ共同声
明，10，29
「母乳とダイオキシン」：本郷寛子，11，45.

MY BOOK

- 『在日外国人の母子保健—日本に生きる世界の母と
子』：李節子，1，80.
『障害をもつ子を産むということ—19人の体験』を編
集して：野辺明子，6，90.
『出生前診断—いのちの品質管理への警鐘』：佐藤孝
道，7，78.
『母乳育児の文化と真実』を訳して：瀬川雅史，12，
88.

書評

- 「胎児心拍数モニタリングの実際」：石村由利子，3，
79.
『ライフ・サポート』(スザンヌ・ゴードン著)は看護の
役割を力強く説いたドキュメントである：森山幹
夫，4，85.
『ピル服用指導ガイドブック』 斎藤益子，12，92.

新刊紹介

- 「ベナー/ルーベル現象学的人間論と看護」，8，82.

りれー随筆

- 自分バージョンアップと出会い：立野裕子，1，82.
私の三要素：小林朝子，2，94.
大切なもの：宮本智子，3，76.
教員3年目の春に：古磯祥子，4，86.
8年ぶりの出産：賀数いづみ，5，84.
悩み，迷う日々：藤原睦子，6，92.
私の身近なパートナー：市毛啓子，7，82.
激動の5年間：国実明美，8，92.
助産所出産体験記：堀悦子，10，84.
ちょっと一息ついて思うこと：北村八重子，11，92.
助産婦としての迷い：西畑久美子，12，90.

Medical Scope：島田信宏

- 慢性腎不全女性の妊娠・分娩(2)：1，85.
妊娠中毒症の新しい分類：2，97.
胎児の脳低体温療法：3，83.
エンジョイ・ユア妊娠ライフ：4，91.
早産・切迫早産と経腔超音波による子宮頸管診断：5，
87.
産科的ハイリスク妊娠：6，95.
VBAC 再び話題に：7，85.
VBAC のときの子宮破裂の症状：8，95.
分娩中のオキシトシンの使用量：10，89.
分娩時に原因を求められる新生児の脳障害について：
11，95.
これからの妊娠性高血圧(妊娠中毒症)の治療：12，
93.

NURSING BOOK INFORMATION

医学書院

医療事故 看護の法と倫理の視点から 第2版

石井トク

●A5 頁248 図5 表1 1999
定価(本体2,900円+税) 円400
[ISBN4-260-34359-9]

看護婦が関係した医療事故の事例を，①看護婦の業務範囲と責任，②医師の指示と看護婦の業務についての視点から分析したもの。医療事故を防ぐには，事例から学ぶことが最善との立場で，事故を分析，解釈している。今版では1990年以後の重要な判例を追加，用語の解説なども加え，さらにわかりやすいものとした。